



平成23年10月25日
岡山大学

＜口臭の原因物質が歯周病の悪化を促進させる

ことを世界で初めて証明＞

＜概要＞

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田 学教授のグループが、口臭の原因である硫化水素が、歯を支える骨（歯槽骨）を溶かす口腔細菌由来の毒素に作用して、その働きを相加的に増強することを世界で最初に証明しました。この研究成果は、アメリカの歯周病専門雑誌 Journal of Periodontology 9月号の電子版に掲載されました。

多くの人々が口臭で悩んでいます。ところが、口臭ばかりではなく、同時に歯槽骨も溶かされている可能性があります。適切な口臭治療で、歯周病の治療や予防にも貢献できることが期待されます。

＜本 文＞

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田 学教授のグループは、ラットを用いて口臭モデルを作成しました。口臭の原因である硫化水素は、単独で歯槽骨吸収を促すことは以前から知られていました。今回は、硫化水素が歯周病原生菌の産生する毒素に相加的に作用して、毒素の作用（炎症性細胞や歯槽骨を吸収する細胞の数を増加させる作用）をさらに増強することを確認しました。

＜見込まれる成果＞

今回の研究成果から、口臭の治療は、歯周病の治療や予防のためにも大切であることが示唆されました。歯周病は多くの患者さんが罹患しており、歯を失う原因の一番であるといわれています。一方、エチケットとしての口臭予防について、誰もが関心を持つ時代になってきました。口臭予防が歯周病予防にもつながる事を世の中に広く伝えることで、「健康な息」と「健康な歯ぐき」を持つ人が同時に増えると期待されます。

また、口臭の原因は様々であり、歯科医師による口臭検査と診断のもと、適切な口臭治療が必要となります。口臭で悩んでいる方には、歯周病の予防・治療のためにも、歯科の受診を勧めます。

＜補足＞

近年、清潔志向への社会的な関心が高まるにつれて、口臭を主訴とする患者さんが増加



PRESS RELEASE

しています。介護の現場でも要介護者の口臭が問題となっており、今後ますます重要な課題と思われます。他覚的に口臭が認められる患者さんの90%以上は口腔内が原因といわれています。また、口臭の原因物質としては揮発性硫黄化合物が主流であり、硫化水素やメチルメルカプタン、ジメチルサルファイドがその代表です。

口臭と歯周病の関連性は、以前から報告されていましたが、口臭がどのようなメカニズムで歯周病に影響するのかわかっていませんでした。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究
科予防歯科学分野・入江浩一郎

(電話番号) 086-235-6712

(FAX番号) 086-235-6714